OG 紹介

㈱中国放送　報道制作局　報道部
藤原佳那子さん：平成１５年度入学生（行動科学プログラム）

○仕事内容

私は今、記者の仕事をしています。仕事内容は主に実際に現場へ取材に行って記事を書き、テレビのニュース〈広島版の定時ニュース〉を作ることです。ちなみに現在の担当は市役所です。具体的には広島市で今どういった行政やまちづくりが行われていて、そこにどのような問題があるのかを取材し、見ている人に分かりやすく、伝えるということをしています。

○今の仕事を選んだ理由

実はもともと学校の先生になろうと思っていました。でも当時は毎日部活動に打ち込んでいたのであまりの忙しさに教免はあきらめてしまったんですよね。学校の先生にならなかったらどうしようかと考えている頃に新聞記者である叔父からいろんな話を聞いて記者って「かっこいいな!」と思ったのがきっかけです。2年生の時に報道関係の就職セミナーにいったり記者に関する本を読んだりしていくうちに、だんだん憧れが強くなってきて。記者の仕事でやっていきたい!と思ったのがスタートです。

○仕事のやりがい

自分が伝えたいと思ったことを放送して、それを見た人が何かを感じ取ってくれたり、ちょっとでも誰かの役に立ったりしたら嬉しいですね。もちろん視聴率も気になりますが（笑）見た人からの直接の声が一番の励みです。

○今後の展望・目

来年の4月に
するので、まず
目標ですね。記
りたかった仕事
けていきたいと
うちにどんどん
たいという思い
事なので。人か
なくて、自分が
りの人の関心
して、周りの人
なニュースを作

○総科に入った理

もともと高校
学をやりたい、
から、そっちも
した。最終的に
のもあるんです
授業が受けられ
たい授業が受け
総科がいいなと

○総科でよかった！と思うこと

いろんな専門家の先生に出会えたことは大きいです。取材する際、大学の時に聞いた話が役立つことはよくありますね。「あっ、なんとなく聞いたことある！」「そういえばあの時、あの先生がこんな話をしていたな」という感じで。

○就職活動で苦労したこと

そもそもメディア関係の仕事を目指してスタートしたのが遅かったです。丁度就活が本格化したのが三年の夏くらいで、エントリーシートを出し始めたのが三年の秋くらい。秋冬はひたすらエントリーシートを書いていました。でも受からないから、へこみにへこんで、本当にいいのかなあ・・・と。一個でも受かるところがあればモチベーションも上がる、前向きになれるんですけど、結構落ち続けたんですね。やっぱり、落ち続けたときのモチベーションを保つことに一番苦労しました。

○学生時代の人生に影響を与えた人・本

坂田桐子先生と話をして、先生も女性でずっと働かれていたから、「女性としてバリバリ働いて、ずっと仕事続けていってね！私もそうだったから」ということを言われました。わたしは元々、そうなりたいとは思っていましたが、先生と改めてそういうことを話しているうちに、やっぱり仕事は続けていきたい！という思いが強まりましたね。

本では、虐待のことが取材したくて、児童虐待についての本ばかり読んでいました。ちょっと暗いかもしれないけど(笑)影響を受けたっていうとちょっと違うかも知れないけど、「シーラという子」っていう児童虐待の本があって、それが、児童虐待を取材したいな、って思ったきっかけですね。今も児童虐待の取材っていうのは細々と続けていて、いずれそういった番組をしたいな、と思っています。

○総科生へ一言

とにかくいろんな人と出会ってほしい。いろんな授業に出て話を聞くだけでもいい。学生時代が一番フットワーク良く動き回れるじゃないですか。社会人になったらなかなかそうはいかないんです。私の仕事は、ある意味人と出会うことだけど、取材する側、される側という立場があるし、利害関係とかもあるから、純粋に人と出会って話をすることがなかなかできないです。学生の間は、とにかく話して自分の視野を広げる良い時間だと思います。

また、海外へ行くチャンスがあれば、行っておいた方がいいと思います。今、広島で記者をしていて、どうしても八月六日の原爆の日の取材は避けて通れないんですよね。広島市って外国人がすごく多いので、外国の人から見た広島を取材できたら一番いいのかなと思います。それに、どんな仕事でも日本だけでやっている仕事って少ないです。やっぱり海外の人を相手にしなきゃいけないので、そういう機会がある人は行った方がいいと思います。

【担当】26生　石原佳奈
26生　己斐　匠